

シツちゃん ブギウギ





今からお話するのは、歌と踊りで日本中を
元気にした

相生 生まれの 女の子のお話です。

「シヅちゃん ブギウギ」

はじまり はじまり





シヅちゃんは、笠置シヅ子と言います。

1914年 東かがわ市の相生で生まれました。

一才になる前に引田の亀井さん夫婦に引き取られ大阪へ行きました。

大阪で元気にすくすく育ったシヅちゃんは、歌や踊りが大好きでした。

両親がお風呂屋さんだったので、よくお客さんの前で歌を歌っていました。

客1 「シヅちゃん あんた ええ声やなあ。

もう一曲うたってくれんか。

あんたの声は元気の素や」

客2 「そーや！ 歌 上手やから、宝塚行って

歌って踊れるアイドルになれるんちゃうか」

シヅ子 「ほんまー。うれしーわ。ありがとな。

もう一曲歌うわ」

や
っ
た
あ
ら



歌も!



小さく
たって!

出来ます!



宝塚音楽学校

326	427	51
339	443	527
356	456	568
378	489	694



シヅちゃんは 小学校を卒業してあこがれの
宝塚音楽学校を受験しました。

しかし、身長が足りず不合格となりました。
夢を諦めきれないシヅちゃんは、その日のうちに
松竹楽劇部の門をたたきました。

シヅ子「お願いです！　うちは、背が　ちいそうて　宝塚
に入れんかったんです。それがとても悔しいんで
す。体が小さくても歌や踊りは誰にも負けへん。
ここにに入れて下さい」と必死に頼みました。

松竹　「落ちてすぐ来たんか・・・。あんた　なかなか根
性ありそうやな。声も大きいし、体も丈夫そうや
な。よっしゃ　明日からうちにきたらええわ」。

シヅ子「ほんまですか！　ありがとうございます。」

シヅちゃんは、飛び上がって喜びました。

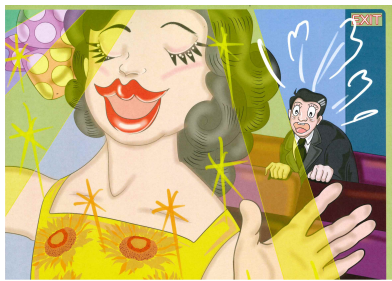
そして、夢への一步を掴み取りました。

シヅちゃんは、他の誰よりも一生懸命練習して、

次第に大阪でスターになっていきました。

EXIT





大阪で 松竹の『スタートトップ⑩^{テン}』に選ばれていた
シヅ子は、二十才の時、東京に進出しました。

舞台稽古をみていた指揮者の服部先生は

先生「なんと すばらしい歌声とパワフルなダンスだ！

僕の音楽に これほど ピッタリな子は 見たこ

とがない！！ あの子なら きっと アメリカの

「ジャズ」も歌える！

「どんどん曲のアイデアがうかんでくるぞ」

そして、服部はシヅ子のためにたくさんの曲を作り
ました。





シヅ子が大好きなジャズを歌って活躍していた頃、
戦争が始まりました。

ある日 警察によばれ

警察A「おまえの歌は 日本が戦っている外国の歌だか

らけしからん。そんな歌はやめろ。

やめないなら 日本をうらぎった者として逮捕

するぞ」

シヅ子「……はい。」

シヅ子は 大好きな歌を自分らしく歌うこともできず、

その上、住んでいた家は焼け、戦争に行っているたっ

た一人の大切な弟も亡くなりました。

シヅ子「戦争に なんもかんも とられてしもた。」





暗く長い戦争がやっと終わりました。

しかし、日本人の心と体は疲れ果てていました。

シヅ子「みんなー！！ いつまでも泣いてんと、さあ、

元気だしてやー！！」

シヅ子は再び服部先生とコンビを組んで 心がウキ

ウキワクワクする曲を完成させました。大ヒット曲

「東京ブギウギ」。この曲は、戦争で元気をなくして

いた日本人に生きる勇気を与えました。

そして、何よりシヅ子自身が再スタートするための曲
でした。

【ブギウギ少しながす】

曲が完成した時、シヅ子は娘を産んでいました。

しかし、赤ちゃんに会えるのを楽しみにしていた

父親は、誕生をまたずに病気で亡くなっていました。

シヅ子は、生まれたばかりの娘に楽屋でお乳をあげ
ながら、

シヅ子「エイ子 あんたのためにも お母さんは がん
ばるで」

と二人で生きていく決心をしました。

【ブギウギ少し流す】



朝日座

イメージ

朝日座
引田
HIKIDA



ある日 シヅ子はレコード会社のえらい人に呼ばれました

会社役員A 「シヅ子さん 東京・大阪以外で歌ってみな

いかい」

シヅ子の答えは決まっていました。

シヅ子 「それなら 私、絶対引田がいい！」。

会社役員A 「え！引田！ どこだいそこは」

シヅ子 「私が うまれた所なんです」。

シヅ子の願いは叶い、引田の朝日座でコンサートを

ひらくことになりました。

引田駅に到着したシズ子は、そこで たくさんの人

に迎えられました。

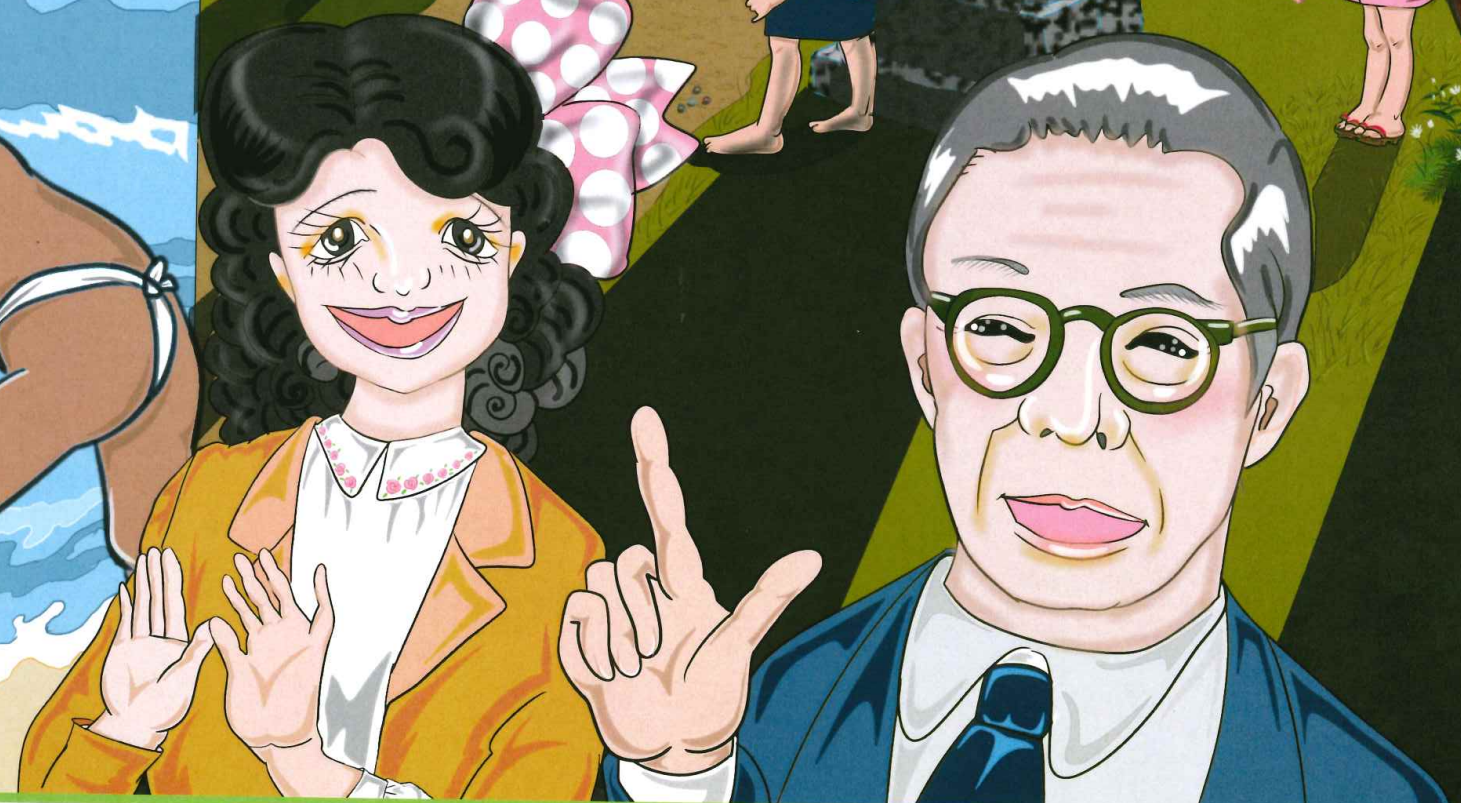
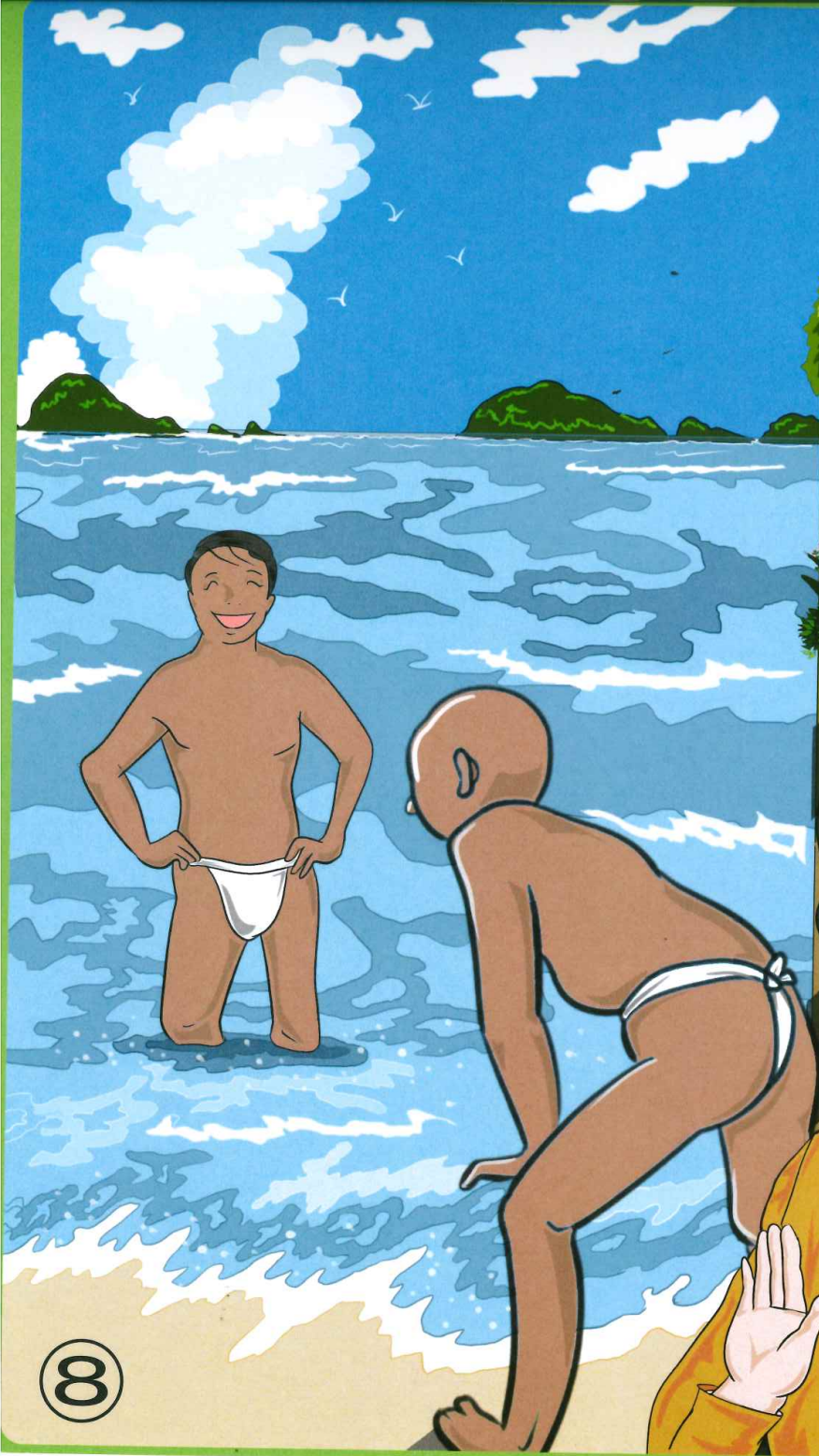
引田住民 「シヅ子ちゃん待ってたで」

「おかえりシヅちゃん」

「がんばってな」

「歌楽しみにしてるで」

コンサートは大成功でした。





さらに シヅ子と引田を結びつけた人物が

南原繁さんという東京大学の立派な先生です。

この先生は、シヅ子と同じ東かがわ市の相生に生まれた人です。

東京大学の南原先生のお部屋で

南原先生「シヅちゃんのお父さんは シヅちゃんが生ま

れてすぐに 病気で 亡くなってしまった

んだよ。

だけど、シヅちゃんが生まれたことを

とても喜んでいたよ。 シヅちゃんのお父

さんはね 私の親友で 小さい頃から海で

泳いだりして 一緒に遊んでたんだよ。

私がお父さんの分も シヅちゃんを応援し

たいんだ」

南原先生の話を聞いたシヅ子の心は とても

しあわせな気持ちになりました。



おしまい



月日は流れ シヅ子を応援してくれた 南原先生
もなくなりました。

ある日のこと シヅ子のもとにこんな 連絡があ
りました。

郷里の人A「相生小学校に南原先生の歌碑を作ること

なっただ。」

シヅ子「それなら、うちは ぜひ 子ども達に伝えたい

ことがあるんよ」

シヅ子は相生の子ども達に手紙を送ることにしました。

そこには・・・

「相生という地ではぐくまれた美しい心を常にもち、南原
先生のように誰にでも美しい愛の心で接してください」

と書かれていました。

シヅ子「うちはな うまれてすぐに大阪に行ったけど

心のふるさとは 引田なんや。

皆さん いつまでも ふるさを愛し、

元気いっぱい、力いっぱい

たくさん笑って大きくなってください。

そして、自分の夢を大切してください。」

おしまい